



山口情報芸術センター 開館記念公演 フランス・ダンス・03 参加作品

Philippe DECOUFLE Creation 03 -Multi- National Production

フィリップ・ドゥクフレ国際共同製作 新作公演

「IRIS [イリス]」

日時：2003年11月1日(土) 2日(日) 3日(祝)
各16:00開演

会場：スタジオA

料金：A席4,000円 A席割引3,000円
B席2,000円

チケット情報：プレイガイド発売:9月1日(月)~
エニー会員先行:8月25日(金)~

演出・構成・振付：フィリップ・ドゥクフレ

演奏：ディ・テルズィ、タオ・フィエンフェン、他

衣裳デザイン：ひびのこづえ

照明デザイン：足立恒

セットデザイン：
鯨丸邦生、ピエール=ジャン・ヴェルブラーケン

映像：山元史朗(YCAM)

出演(予定)：伊藤千枝、小浜正寛、伊藤郁女、
キム・ミヤ、アレクサンドラ・ノーデ、
ステファン・シヴォ、ジャン・パティスト、
クリストフ・ワックスマン、オリヴィエ・シモラ、
ジャン・ヤン、フェイ・ポー、ルー・ジンユン

主催：財団法人山口市文化振興財団

共催：国際交流基金、
財団法人神奈川芸術文化財団、
カンパニーD.C.A.、
シャトーパロン国立振付センター、
シャイヨー劇場、
モンパリエ国際ダンス・フェスティバル
フォーラム・デザール・パルセロナ

制作：山口情報芸術センター

山口情報芸術センターでは、2003年11月の開館記念、いわゆる柿落とし公演として、いまヨーロッパで最も人気の高い振付家であるフィリップ・ドゥクフレの演出による新作ダンス作品を上演します。

この作品は、この秋に全国的に展開されるコンテンポラリーダンス・フェスティバル、フランス・ダンス・03のメイン作品として、日本をはじめ中国、韓国、そしてフランスからダンサー、パフォーマー、ミュージシャンが参加する国際協同作品で、山口市文化振興財団、神奈川芸術文化財団及び国際交流基金により共同製作されます。

2001年より横浜・北京でワークショップを重ねメンバーを厳選し、2003年6月にフランスで稽古を開始。8月11日より9月末まで、出演者16名、スタッフ約10名が山口市内に滞在し、開館前の山口情報芸術センタースタジオAに於いて映像を交えた作品創造を行います。そして、10月10日神奈川県民ホール(横浜)でワールドプレミア公演の後、11月1日に山口情報芸術センターの開館記念公演となります。山口公演の後には、パリで約一か月の公演が行われ、2004年にはヨーロッパツアーが予定されています。

ドゥクフレはこの新作について、アジアと西洋の文化の新たな出会いに加え、生身の身体の動きに、様々なデジタル処理をした映像と照明をインタラクティブに交錯させ、さらなる未知で不可思議な世界に入りたいと語っています。

まさに、新しい創造と交流の場としての山口情報芸術センター開館を飾るにふさわしい作品と言えるでしょう。

Philippe DECOUFLE

フィリップ・ドゥクフレ 振付家・演出家・映像作家・ダンサー

1961年パリ生まれ。サーカス学校でマイムやアクロバットを学ぶ。1983年バニョレ国際振付コンクール入賞。同年、若手のクリエイティブ集団「カンパニーD.C.A.」を結成。92年のアルベールビル冬季オリンピックの開会・閉会式の演出は世界中の注目と賞賛を浴び、ドゥクフレの名前はダンス界だけでなく一躍世界中に知れ渡る。

代表作「トリトン」では、サーカス的な技術をダンス表現と融合し詩的な世界を創出。また97年のカンヌ国際映画祭50周年のセレモニー作品から発展した「シャザム!」では、生のパフォーマンスと映像とが錯綜するだまし絵のような舞台を展開。

その無邪気で知的なとどまることを知らない想像力で、舞台や映像の領域を越え、奇想天外で詩的な表現を生み出す稀有なアーティスト。

<http://cie-dca.com/>

フランス・ダンス・03について

2003年10月から約2ヶ月間、日本各地を結び開催される、これまで前例のない大規模なフランス・コンテンポラリー・ダンスのフェスティバル。世界のダンス界を代表する作家達や今パリで注目を浴びる気鋭のアーティストによる現在提供できる最高の作品が紹介されます。ダンスの現在形を一望すると同時に、今私たちが生きる時代の現実を感じ、考えさせる、またとないフェスティバルです。

<http://www.francedanse03.jp/index.html>